

第3回 新産業戦略協議会 事前検討



場所:内閣府 中央合同庁舎8号館 8階 623会議室

日時:2016年3月7日(月)



東成エレクトロビーム株式会社 代表取締役会長 上野 保



- 日本版インダストリー4.0実現の前提となる
「プラットフォーム」の**事前開発**が必要
「プラットフォーム」は**国際標準準拠**の
データ連携標準を実装していること
- 中小企業施策としては
「ビジネス連携プラットフォーム」を実証の場として利用

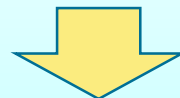


○「ビジネス連携プラットフォーム」への
接続I/F共通標準

○ 接続I/F共通標準を実装した
多様な業務アプリケーション群
FAX利用からの切り替えが容易になることを検証



中小企業全体の生産性向上実現



強力なグローバル差別化へ



中小企業のインダストリー4.0対応は？

- ◇ 中小企業は「IoT」導入の前提がそろっていない
 - 古い人手操作の生産設備が多数
 - CAD・CAMが使える生産設備はまだ一部
 - バラバラに導入され、つながっていない社内ITアプリ
 - 人手による生産計画と工程管理
- ◇ 企業間ビジネスデータ交換はFAX利用が継続
 - FAX利用のままでは「IoT」には繋げない
 - しかし「IoB²」サービスが提供されていないので、FAX利用を脱却できない



◇ これらの課題を解決する施策が求められる



中小企業インダストリー4.0実現の要件

◇次の要件整備が前提

① 中小企業がFAX代わりに利用できる安価な「ビジネス連携プラットフォーム」IoB²サービス実用化の先行実現が必要

- 連携プロバイダ経由でどこへでも送受信できるサービス提供 (FAX、電子メールと同等機能)
- 商取引だけでなく、多様な企業間連携業務のデータ交換に使えるサービス提供
- FAXと同等レベルの価格でサービス提供

② IoB²サービスの導入・普及支援

③ 「IoB²」「IoT」導入支援人材の育成